SHÛ

展覧会への招待

学びの風景——明治のおもちゃ絵・絵双六に描かれた教育——

この展覧会は、教育と図像の関わりをテーマとした企画展である「明治前期教育用絵図展」（2003年）、「掛図にみる教育の歴史」（2006年）に続くシリーズになりますが、今回は学校教育の中で使われたものではなく、主に子どもたちの遊びや家庭で使われたおもちゃ絵や絵双六（えすごろく）を対象としています。

玉川大学教育博物館の教育史コレクションは、江戸時代から現代に至る教育の歴史を調査研究し、展示や教育活動の中で有効に活用することを目的として、体系的に収集、整理、保存してきた資料からなります。その中心は江戸期の幕府の学問所や藩校・郷校をはじめ、私塾、寺子屋を中心とした関連資料、明治期から昭和にかけての学校教育の場で使われてきた教科書、掛図をはじめとする教材・教具、関係資料などですが、コレクションの中には子どもの遊びや生活にかかわる資料も多く含まれています。

収集の意義としては、子どもたちの遊びをはじめとする生活文化が教育と密接な関係にあるからです。たとえば「よく学び、よく遊べ」という言葉は、学びと遊びが相反するものという意味にとらえられるかもしれませんが、遊びの中には教育的意義があるという見方からすれば、学びと遊びが子どもにとって共存する概念、つまり、同じものであるという認識にもなります。このような収集方針のもと、教育の歴史的歩みをたどる資料とともに、今回展示するおもちゃ絵や絵双六などもコレクションされてきました。

おもちゃ絵とは簡単にいえば、子ども用錦絵であり、一枚摺り・多色刷り木版画として明治期には大いに流行しました。その種類は多様で、着せ替え絵、組上げ・組立て絵、回り灯籠（とうろう）、紙相撲、メンコ、カルタ、絵合

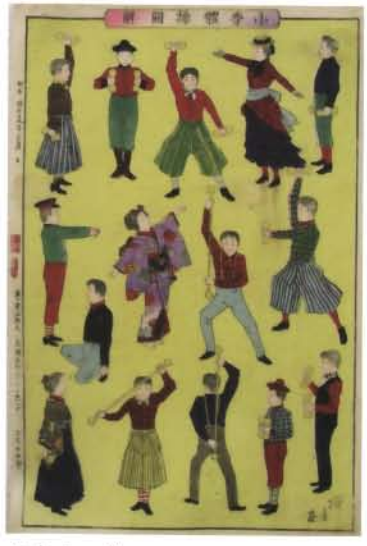
男子学校教育寿語録（すごろく）
楊斎延一画　木版色刷
72.6×48.8㎝　明治23（1890）年

女子学校勉励寿語録
橋本周延画　木版色刷
72.8×49.1㎝　明治20（1887）年

わせ、福笑いなどのようにハサミや刃物で切り取り、細工して玩具・遊具として使用するものや豆本、絵巻物風に仕立てて鑑賞するものなどがあります。

絵双六は、大きく分けるとおもちゃ絵の一種とも考えられますが、おもちゃ絵と違って細工や切り抜いたりせずに、そのまま双六として使うもので、大形のものが多くみられます。絵双六も教訓双六、道中双六、芝居双六、歴史双六、名所双六、出世双六など多種多様な題材をもとに、江戸から明治時代にかけて盛んにつくられました。

おもちゃ絵
児学教導単語之図
木版色刷　35.3×23.7㎝
明治8（1875）年



おもちゃ絵
小学体操図解
井上探景画　木版色刷　35.4×23.7㎝　明治19（1886）年

今回展示する資料は、数多いおもちゃ絵・絵双六コレクションの中から、明治期の子どもたちの学習風景、教材、学校生活などが描かれたものに限定しています。展示内容は、学校生活、掛図を使った授業、体操・運動、教材・教具、幼稚園、女子教育などのテーマからなり、それぞれの関連資料とともに約120点の展示資料をもって構成します。これによって、明治期の教育の歴史をたどるとともに、当時の学びの様子やおもちゃ絵や絵双六が子どもたちにどう受容・享受されていったのかという側面もあわせて紹介いたします。

（企画展示担当　柿崎博孝）

2008年度企画展　学びの風景　――明治のおもちゃ絵・絵双六に描かれた教育――

会　場　　玉川大学教育博物館（第2展示室）
期　間　　2008年11月3日（月）～2009年1月30日（金）
休館日　　土曜日・日曜日・祝日（11／3・8・9・24、12／6を除く）、11／11－13、12／24－1／4
時　間　　9:00～17:00（入館は16:30まで）　　入館無料

SHÛ

新収資料紹介
台北州立台北第一中学校資料

白柳弘幸

（左）『麗正会雑誌』第27号　大正7（1918）年12月　21.9×15.0㎝
（右）『麗正』第38号　昭和6（1931）年2月　22.2×15.1㎝

台北第一中学校は、日本統治下台湾で外地における最初の中等学校として明治31（1898）年4月に創立された。創立当初は台湾総督府国語学校第四附属学校に付置された尋常中学科であった。明治40（1907）年5月に国語学校から独立し台湾総督府中学校、大正11（1922）年4月に台北州立台北第一中学校となった。第2次世界大戦後、中華民国政府に接収され、昭和21（1946）年1月25日、台湾省立台北仁愛中学校と改称。同年3月20日に廃校。

平成19（2007）年5月、戦後再発足した麗正会（同窓会）が学校独立百年の節目の年を迎え、同年末をもって活動を終えた。それに伴い同会事務局から、事務局所蔵の同窓会誌『麗正』や卒業記念帳・卒業証書・同窓会誌等148点や台湾関係図書の寄贈を受けた。

戦後63年を過ぎたが、外地にあった日本人教育についての研究は進んでいるとは言い難い。外地からの引き揚げ時、個々人が持ち帰ることのできる手荷物に制限があったため、学校教育関係資料まで手が回らなかったからである。そうした中、本資料には大正7（1918）年発行『麗正会雑誌』等の原本が9冊含まれ、日本統治下台湾での中等学校教育の様子を見ることができる。また、僅か2ヶ月しか存在しなかった台湾省立台北仁愛中学校発行の卒業証書も含まれている。これは当時の中華民国政府が「戦争をしたのは大人たちであって、子どもたちには罪はない」と判断し、日本人子弟の学校教育を存続させたと言われていることを証明する資料となるだろう。　（しらやなぎひろゆき／教育博物館学芸員）